

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796100069		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター泉ヶ丘 (1階)		
所在地	大阪府堺市中区深阪3丁1番74号		
自己評価作成日	平成29年8月4日	評価結果市町村受理日	平成29年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&dirvosyoCd=2796100069-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・住宅街の中にあり、車の往来が少ないので、少し足をのぼして近隣スーパーへ買い物へ出かける事もできる。又、隣が公園で四季折々に変化があり地域の方とも交流できる場になっている。 ・毎月イベントを開催し、地域の方を招いて行う事もある。地域に根ざしたホーム作りをしたいと常々職員達に周知しホームの良さを知って頂く努力をしている。(近隣へのチラシ配布等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは「いつも笑顔でその人らしい生活を」との理念を掲げ、職員間は連携良く会議の中で笑顔の大切さやその人らしさに向けての支援ができるように話し合い、流しそうめんやバーベキューなどの楽しみごとの支援に取り組んでいます。季節を問わず毎日散歩に出ることを心がけ近隣の公園や買い物に行ったり、テラスや玄関先のベンチで外気浴をする等外に出る機会を大切に支援しており、また初詣や梅や桜の花見などの季節を感じられる外出に加え、春には家族にも案内し一緒に遠足に出かけ楽しんでます。重度化した利用者には、医師から病状の説明を受け家族と職員の三者で話し合いを繰り返し行い方針を共有し、本人や家族の意向を大切にし家族の協力を得ながら看護師の頻繁な訪問がありケアや不安な点のアドバイスをもらい看取り支援にも取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は平成27年の外部評価以降職員から募集し、ホームで暮らす利用者様本位の理念を新しくした	職員間で意見を出し合い「いつも笑顔でその人らしい生活を」とのホーム独自の理念を作成し、新しい職員には入職時に理念について伝えています。毎日夕礼で唱和し意識できるようにし、会議の中で笑顔の大切さやその人らしさに向けての支援ができるように話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのふれあいは毎月行うイベントへのお誘いや地域の盆踊り等に参加させて頂いている	日々の散歩で地域の方に出会った時には挨拶を交わし時には花をもらうこともあり、日用品の買い物は地域の店に利用者と一緒に掛かっています。不定期でギターやピアノ演奏などの音楽ボランティアに来てもらったり、ホームの秋祭りなどの行事に近隣に案内し子どもたちの来訪があり交流しています。地域に向け開催している認知症サポーター講座に携わり、地域の方に認知症ケアについて知ってもらえるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの中の様子や見学への参加を促したチラシを作り利用者様と近隣へ配布している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の民生員さんやご家族様に参加して頂き、情報の公開や貴重な意見をもらっている。今後は参加出来るご家族様を増やして行きたい。	会議は家族や民生委員、地域包括支援センター職員、他事業所管理者等の参加を得て隔月に開催しています。利用者の状況や行事、事故、研修などの報告を行い、意見交換したりアドバイスももらっています。参加者の意見を受けて、ヒヤリハット事例の報告件数を増やすために速やかに書くことができるように書式変更に取り組むなど、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密な連携は取れていないが管理者は中区基幹型包括支援センターが主催している認知症の啓蒙活動に出来るだけ参加するようにしている。	手続きや事故報告等があれば区役所の窓口に行ったり、わからないこと等は法人の担当者を通して聞くこともあります。中区のグループホーム連絡会には市職員の出席もあり、情報交換をしたり小学生に向けた認知症サポーター講座などへの協力を行う等、良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成29年2月より主治医の指示によりお昼ね、及び就寝時にミトン、拘束衣を着用して頂いている。月1回カンファレンスを行い緊急やむを得ない身体拘束に関する検討記録をつけ、ご家族様への同意を得ている。	年に2回は身体拘束についての研修を行い、欠席の職員には資料を配り周知しています。玄関等の鍵は掛けず外に行きたい様子があればさりげなく出かけたり、利用者の行動を止めるような言葉掛けも無いように努め、不適切な対応があればその都度職員間で注意し合っています。医師の指示もありミトンや拘束衣を着用している利用者には、毎月会議を行いミトンの着用はやめることができる等拘束をしないための検討をしています。	

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止委員会にて研修を実施している。普段、職員同士で何でも話せる環境を作り、虐待の無いホーム作りを目指している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	堺市の集団指導等を活用し、職員へ向けて学ぶ機会にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は出来るだけ丁寧に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に直接要望を聞く事が多い。又、一部のご家族様は行事への参加をいただいている	日々の関わりの中で利用者の意見を聞き、家族からは面会時や年に1度行うアンケート等の際に意見や要望を聞いています。毎月便りでホームや利用者の様子を家族に伝えたり、来訪時に話しやすい雰囲気を作り意見を言えるように配慮しています。家族から掃除についての意見をもらい業務を見直したり、食事業者の導入にあたり試食してもらい意見を聞くなど、得られた意見を運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見の反映は随時行っているが、現状は意見や提案は少ない。	職員間では意見を言いやすい関係が築かれ意見を出し合い、毎月行われる職員全員が集まる会議では個々の利用者のケアや業務改善などの意見が出される他、行事や環境などの委員会からの提案があり検討しています。年に2回職員のアンケートに基づき面談を行い、個別に意見や希望等を聞く機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やる気のある職員は社員へ推薦したり、各委員会にて研修を開催する機会を与えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中々法人内外の研修を受ける機会は少ないが各委員会にてリーダーを決め研修を進め、スタッフに学ばせている。		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員不足の中実現は難しいが他ホームとの交流を行う事でスキルアップに役立てたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランはセンター方式を活用している。出来るだけご本人に寄り添い信頼関係が持てるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約開始時当に出来るだけ希望に沿った対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	仕事等で外部受診の付き添いが困難な家族に対し保険外のサービスの案内等行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はご自身で行って頂き、出来る事を取り上げないようケアプランにも入れている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時等に近況を報告し必要であれば助言等頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来れば馴染みの場所へお連れする機会を持ちたいが、中々出来ない。	親戚等の面会があった時には居室に椅子を準備しお茶を出すなど、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。家族の協力を得て墓参りや馴染みの店への外食などに出かける方もいます。年賀状の代筆や電話の取次ぎなどを行い、馴染みの関係が継続するよう支援しています。	

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置等を常に考慮しホーム全体の交流も頻繁に行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にお伝えはしている。又契約終了後も近況報告等される家族様もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人にあった暮らし方、意向を大切にしている	入居前に自宅や入所している施設を訪問し思いや意向を聞き、家族に生活歴や好みなどをアセスメント用紙に記入してもらい思いの把握に繋がっています。入居後は日々の関わりの中で利用者との会話から思いに繋がる言葉を記録に残し、把握困難な方の思いはカンファレンスで本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様にセンター方式を記入してもらい、その後も暮らしに役立つ情報等追記し把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々お世話する中で発見する事も多い。ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通じて課題の取り組みを行っているが関係各者の意見の取り入れは出来ていない	本人や家族の意向、アセスメントの基、サービス担当者会議を開き介護計画を作成します。日々計画の実施状況を記録に残し、3～6か月ごとにモニタリングと再アセスメントを行い、計画を見直しています。見直しに当たっては、本人や家族に意向を聞き、医師や看護師から聞いた意見も計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護記録を記入する際ケアプランに沿って記入し、必要であれば介護計画の見直しを行っている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別外出や合同のレクリエーションに力を入れているが会社としての制限がかなりある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として近隣のスーパーへ買い物へ行ったり、地域の盆踊りに参加させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との話し合いが必要な場合は家族様と時間調整の上機会を設けている	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し、現在は全員がホームの協力医の往診を月に2回受けています。また同医院の訪問看護による健康管理を毎週受け、急な体調の変化には訪問看護師に連絡を取り、医師とも連携を図り対応してもらっています。専門医へは協力医から紹介状を持って受診し、家族の対応が基本ですが必要に応じてホームで支援しています。歯科や眼科、皮膚科の往診も受けることが可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっているため、毎週月曜日に訪問看護師が来て、日常の健康管理、相談を気兼ねなくしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーさんと連携をとり常に状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医を交えご家族様の意向など十分に話し合い、スタッフ間でも情報共有している	入居時に重度化や終末期の対応指針にそって、ホームで対応できる事やできない事等を説明しています。重度化した場合は医師の判断の下、病状の説明を受け家族と職員の三者で話し合い方針を決めています。本人や家族の意向を大切にしながら家族の協力を得ながら看護師の頻繁な訪問がありケアや不安な点のアドバイスをもらい、看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が対応できるよう定期的に勉強会を行っている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通じて実施している	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち会いの下実施し、昼夜を想定し通報や初期消火、利用者と一緒に避難誘導を行い消防士からアドバイスをもらっています。まだ協力は得られていませんが近隣の方や地域の方に訓練への働きかけを行ったり、水や粥などの備蓄を行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ寄り添い不安を与えないよう声かけに配慮している	年に1回以上接遇マナーの研修を行い、利用者の尊厳を大切にした対応を心がけています。敬語を基本としていますが、個々の利用者に合わせて言葉かけに配慮し、同性介助も出来る限り行っています。排泄支援時に声が大きくなったり馴れ馴れしいくなった場合などは、その都度注意したり個別面談の際にも注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや訴えは時間をとって傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の優先はせず、なるべくご本人に寄り添ったケアを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪に来ていただき、身だしなみには気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来る方には手伝って頂き、食事が楽しみになる工夫を行っている	夕食は温めて提供する調理済みの食事を提供していますが、朝食や昼食はホームで手作りしています。利用者の好みも聞きながら献立を決め、豆の皮むきなどの食材の下拵えや盛り付け、配膳などのできる事に利用者にも携わってもらっています。遠足時に弁当を持って行く時やタコ焼きをする際には職員も同じものを食べ、日々は持参した弁当と一緒に食べることもあります。時には外食に出かけたり、ホームで流しそうめんや鍋料理をして食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物は各人の希望を聞き、好きな物を提供し水分量も1300CCを目標としている		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、毎週火曜日には訪問歯科に来てもらっている。拒否のある方には無理強いしない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツにパットをしてオムツの軽減を考えている。こまめなトイレ誘導にてオムツの使用が減ってきた	排泄チェック表を使用し利用者のパターンの把握に努め、個々のリズムでトイレに行けるように支援し、失敗が少なくなるように取り組んでいます。カンファレンスで支援の方法や排泄用品の選定を行い、現在は日中おむつ使用の利用者はおらず、紙パンツから布の下着に変更した方もおり、個々の状況に応じた自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない自然排便を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく個々に沿った対応をしたいが時間の兼ね合いで15時位には入浴介助を終えている	入浴の曜日は決めず毎日午後の時間に準備し、少なくとも週に3回は入れるように声をかけ、一人ずつ湯を入れ替え入浴の支援をしています。希望があれば午前中の中入浴に対応したり、入浴剤の使用やゆず湯などの季節湯、好みのシャンプーやリンスを持ってくる方もおり、入浴を楽しんでもらっています。入浴を拒否される時には声掛けのタイミングや歌をうたいながら浴室へ誘う等、工夫しながら無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットが慣れていない方は布団にて対応等、その方の寝やすい環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書に目を通して内容を理解するようにしているが、副作用までは理解出来ていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味嗜好に寄り添い支援している		

ニチイケアセンター泉ヶ丘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族が連れ出してくれる方もいるが、会社の規定があり1~2ヶ月前から企画、立案しないと外出支援が出来ないようになっている。徒歩での外出支援は可能である	季節を問わず毎日散歩に出ることを心がけ近隣の公園や買い物に行ったり、テラスや玄関先のベンチで外気浴をする等、外に出る機会を大切に支援しています。初詣や梅や桜の花見などの季節を感じられる外出に加え、春には家族にも案内し一緒に遠足に出かけています。個別に希望を聞き外食したり、家族の協力を得て墓参りや行きたい所へ外出する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足や近隣への買い物時も現金の管理は職員が行っており、本人にはして頂いていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてきても良いとの了承を得ている利用者はご家族へ電話を掛けたり職員が代筆で手紙を書いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のわかる飾り物をして季節感を出している	利用者の好みを聞きながら飾りつけをしたり、生花や七夕飾りひな人形等の季節を感じられるように配慮しています。家庭的な家具を置いたり、廊下に椅子やベンチ等を置き少人数や一人でも過ごせる場所を作っています。時には食卓に利用者専用の机を置くことで落ち着くことができる場所となったこともあります。毎日掃除を行い、利用者の体感に合わせた温湿度管理、空気清浄機の配置など、心地良く過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫をして和やかな雰囲気でも過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	主にご家族と相談する事が多い。初めは鏡台等置けてもご本人の様子が変わってきて危険と判断すれば置かない事もある	入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、タンスやベッドソファ、テレビなどの持参したものを家族が配置しています。趣味のお茶や書道の道具を置いたり、写真や人形、ぬいぐるみ、好きな野球球団のグッズを飾りその人らしい居室作りを心がけています。利用者も掃除を一緒に行う方もおり、清潔を保ち快適に過ごせるよう努めています。また畳を敷き布団で休んでいた方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒のリスクを避け、出来るだけ自由に歩けるよう環境整備している		